

シラバス

科目名	人間の尊厳と自立
到達目標	尊厳の保持、自立、自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護など、介護の基本的な概念を理解する。
時間数	5
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
人間の尊厳と自立	<p>尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護など、介護の基本的な理念を理解する。</p> <p>○課題項目 尊厳、自立、自律、ノーマライゼーション、インクルージョン</p>
<p>[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック (以下出版社名記載のないものは全てミネルヴァ書房刊)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり</p>

科目名	社会の理解 I
到達目標	<u>介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割などを理解し利用者等に助言できる。</u>
時間数	5
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
介護保険制度	<p>介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割などを学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>高齢化、高齢社会におけるジェンダー、寝たきり問題、老老介護、介護保険法、2006年法改正、2012年法改正</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	社会の理解Ⅱ	
到達目標	<p>○<u>家族、地域、社会との関連から生活と福祉を捉えることができる。</u></p> <p>○<u>社会保障制度の発達、体系、財源等について基本的知識を習得する。</u></p> <p>○<u>障害者総合支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</u></p> <p>○<u>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解する。</u></p> <p>○<u>地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。</u></p>	
時間数	30	
学習形態	通信	
項目	講義内容・演習の実施方法・課題等	
<u>社会と生活のしくみ</u>	<p>家族、地域、社会との関連から生活と福祉を捉えることを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 労働、家族、地域社会における個人の生活構造、社会規範の変化、児童福祉法、社会福祉法、母子福祉法、憲法第25条、生活保護法、知的障害者福祉法、老人福祉法</p>	
<u>社会保障制度</u>	<p>社会保障制度の発達、体系、財源などについての基本的知識を学び、習得する。</p> <p>○課題項目 社会福祉制度の体系、社会保険と民間保険の違い、社会扶助原則、年金保険</p>	
<u>障害者総合支援法</u>	<p>障害者総合支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者の負担、専門職の役割などを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 障害者総合支援法、障害者の権利に関する条約、障害者基本法改正、地域生活支援事業、障害福祉計画、自律支援給付、障害福祉サービス利用の流れ、自立支援給付と利用者負担、ライフサイクルからみた支援組織、障害者政策委員会</p>	
<u>介護実践に関する諸制度</u>	<p>成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービスなど、介護実践に関連する制度を学び、習得する。</p> <p>○課題項目 健康日本21、伝染病予防法、性病予防法、後天性免疫不全症候群の予防に関する法律、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、結核対策の諸制度、難病対策の諸制度、日常生活自立支援事業、成年後見制度、虐待防止制度、消費者保護法、個人情報保護に関する制度、医療と介護に関する諸制度、医療行為の定義、介護福祉士と医療行為</p>	
<u>地域共生社会の実現に向けた制度や施策</u>	<p>地域共生社会の考え方と地域包括ケアのしくみについての基本的な知識を習得している。</p> <p>○課題項目 地域包括ケア、地域共生社会</p>	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり	

科目名	介護の基本 I
到達目標	<p>○<u>介護福祉士の法的な定義や義務を踏まえ、介護予防や看取り、災害時等における介護福祉士の役割を理解する。</u></p> <p>○<u>個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解する。</u></p> <p>○<u>介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待予防に関する法制度等を理解し、倫理を遵守する。</u></p>
時間数	10
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>介護福祉士の役割と機能</u>	<p>介護福祉士制度の沿革、法の定義、業務範囲、義務などを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 介護の歴史、介護の定義、医療と介護の連携強化、医学モデルから生活モデルへ、根拠のある介護へ、介護福祉士の制度化、専門職団体・学術団体としての役割、社会福祉士及び介護福祉士法</p>
<u>尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開</u>	<p>個別ケア、ICF（国際生活機能分類）、リハビリテーションなどの考え方をふまえ、尊厳の保持、自立に向けた介護の展開プロセスを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 自立支援、自己選択・自己決定、個別ケア、リハビリテーション、リハビリテーションの動向、尊厳と介護の関係、QOL</p>
<u>介護福祉士の倫理</u>	<p>介護福祉士の職業倫理、身体拘束禁止・虐待防止に関する法・制度などを理解し、倫理遵守について学び、習得する。</p> <p>○課題項目 日本介護福祉士会倫理綱領、利用者の人権と介護、倫理判断の視点、倫理に則った介護の実践、尊厳ある介護の実践、個別性を重視した自立に向けた支援、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、生命倫理、高い倫理性</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第 18 条、第 19 条のとおり

科目名	介護の基本Ⅱ	
到達目標	<p>○<u>介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。</u></p> <p>○<u>チームアプローチに関わる職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得する。</u></p> <p>○<u>リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得する。</u></p> <p>○<u>介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得する。</u></p>	
時間数	20	
学習形態	通信	
項目	講義内容・演習の実施方法・課題等	
<u>介護を必要とする人の生活の理解と支援</u>	<p>介護を必要とする高齢者や障害者などの生活を理解し、ニーズや支援課題を把握することを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 生活習慣、生活障害と認知症、生活課題、利用者主体、人権・健康・安全な生活環境、快適で健康的な居住環境（WHOの定義）、居住空間を妨げる要因、くつろぎの生活環境</p>	
<u>介護実践における連携</u>	<p>関連する職種や関係機関の役割、連携方法などチームアプローチについて学び、習得する。</p> <p>○課題項目 多職種連携、他職種の機能と役割の理解、他職種との連携の場面、地域連携、地域包括支援センター</p>	
<u>介護における安全の確保とリスクマネジメント</u>	<p>介護リスクの分析と事故防止、感染管理など、介護における安全確保について学び、習得する。</p> <p>○課題項目 リスクマネジメント、事故予防、安全対策、転倒予防、感染対策の3原則、感染対策とリスクマネジメント、感染症発生時の対応フロー</p>	
<u>介護従事者の安全</u>	<p>介護従事者の健康管理や労働安全対策について学び、習得する。</p> <p>○課題項目 介護職の健康管理、こころの健康、ストレス、ケアハラスメント、ストレスマネジメント、施設運営上のリスクマネジメント、燃え尽き症候群、メンタルヘルズ指針、腰痛予防、感染症予防、身体的疲労の管理、介護労働者の雇用管理の改善等に関する法律、安全衛生管理体制</p>	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり	

科目名	コミュニケーション技術
到達目標	<p>○本人・家族との支援関係を構築し、意思決定を支援することができる。</p> <p>○利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</p> <p>○チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。</p>
時間数	20
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション	<p>利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>コミュニケーション、パーソンセンタードケア、キットウッドのコミュニケーション技術、二者間コミュニケーション過程、ジョハリの窓、円環的因果律、利用者・家族との信頼関係形成、関心を向ける領域、関心を示す5つの基本動作、人を構成する5つの側面、生活支援とコミュニケーション、ソーシャルワーク、グループワークのコミュニケーション</p>
介護におけるチームマネジメントとコミュニケーション	<p>チームマネジメント(組織の運営管理、人材管理、リーダーシップ・フォロワーシップ等)に関する知識を理解し、活用できる。</p> <p>状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p> <p>○課題項目</p> <p>傾聴、共鳴、共感、同一視、利用者の感情表現の特性、老後の肯定的な側面、共感の技法、観察の視点、環境整備、共感に裏付けられた納得と同意、明確化の技法、焦点化の技法、直面化の技法、要約の技法、質問によるコミュニケーション、質問の種類、利用者・家族への指導、身近な相談相手の活用、相談援助の基本原則、意欲を引き出す技法、意向を調整する技法、ヒューマンサービス組織におけるチーム、チームの発展過程、チームワークの阻害要因、フリーライダー</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	生活支援技術 I	
到達目標	<p>○生活支援における I C F の意義と枠組みを理解する。</p> <p>○ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</p> <p>○居住環境の整備、福祉用具の活用等により、利用者の生活環境を整備する視点・留意点を理解している。</p> <p>○自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得している。</p>	
時間数	20	
学習形態	通信	
項目	講義内容・演習の実施方法・課題等	
<u>生活支援と I C F</u>	<p>生活支援における I C F の意義と枠組みを学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>生活、生活支援、障害老人の日常生活自立度判定基準、認知症高齢者の日常生活自立度判定基準ライフコース、ライフサイクル、介護予防、介護予防の背景、介護予防システム、地域支援事業の内容、廃用症候群、廃用症候群の症状、生活における介護予防、レクリエーション、I C F について、I C F の活用、I C F と介護過程、ストレングスモデル</p>	
<u>ボディメカニクスの活用</u>	<p>ボディメカニクスを活用した介護の原則を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>ボディメカニクスの基本原則、ボディメカニクスの視点、力のモーメントとてこの原理、重心と支持基底面積、摩擦力、慣性力、姿勢、動作、人間の基本姿勢</p>	
<u>生活支援技術の基本</u>	<p>自立に向けた生活支援技術の基本（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等）を習得している。</p> <p>○課題項目</p> <p>生活支援における介護技術、介護技術のポイント、介護技術実践におけるチェックポイント、身じたく、口腔ケア、衣服着用、整容、移動、車いす、杖歩行、食事、誤嚥・窒息、脱水症状、入浴・清潔、排せつ、睡眠、ターミナルケア</p>	
<u>環境整備、福祉用具活用等の視点</u>	<p>居住環境の整備、福祉用具の活用などによる支援を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>福祉用具の定義、歴史と制度、選定ポイント、居住環境整備、バリアフリーとユニバーサルデザイン、介護保険における住宅改修、施設における居住環境整備</p>	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第 18 条、第 19 条のとおり	

科目名	生活支援技術Ⅱ
到達目標	利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。
時間数	30
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
利用者の心身の状態に合わせた生活支援技術・環境整備・移動・移乗・食事・入浴・清潔保持・排泄・着脱、整容、口腔清潔・休息・睡眠・人生の最終段階における介護・福祉用具等の活用	<p>以下について、利用者の心身の状態に合わせた、自立に向けた生活支援技術を理解し、行うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境整備 ・移動・移乗 ・食事 ・入浴・清潔保持 ・排泄 ・着脱、整容、口腔清潔 ・休息・睡眠 ・人生の最終段階における介護 ・福祉用具等の活用 <p>○課題項目 基本確認 利用者の状況に合わせた介護福祉用具の活用と環境整備について事例検討 フィードバック</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	介護過程 I
到達目標	<p>○<u>介護過程の目的、意義、展開等を理解している。</u></p> <p>○<u>介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う。</u></p> <p>○<u>チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を理解している。</u></p>
時間数	20
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>介護過程の基礎知識</u>	<p>介護過程の目的、意義、展開などを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 介護過程、介護過程の実際</p>
<u>介護過程の展開</u>	<p>介護過程をふまえつつ、目標に向けて計画的に介護を行うことを学び、習得する。</p> <p>○課題項目 情報収集とアセスメント、アセスメントの視点、計画立案、目標設定、介護実践、目標確認・判断、記録、介護計画の評価、評価のポイント</p>
<u>介護過程とチームアプローチ</u>	<p>チームで介護過程を展開するための情報共有の方法、他の職種の役割を学び、習得する。</p> <p>○課題項目 ケアマネジメント、ケアマネジメントの歴史、ケアマネジメントの対象、社会資源とケアマネジメント、ケアプランの立案、個別援助計画、介護過程と職種間の連携、エコマップ</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキスト(株式会社学凛社発行)	[単位認定の方法及び基準] 学則第 18 条、第 19 条のとおり

科目名	介護過程Ⅱ
到達目標	<u>情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる。</u>
時間数	25
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>介護過程の展開の実際</u>	<p>情報収集、アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しについて学び、習得する。</p> <p><u>観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携等についても考察させる。</u></p> <p>○課題項目</p> <p>介護過程の展開についての事例検討1 (施設で暮らす高齢者の介護過程)</p> <p>介護過程の展開についての事例検討2 (在宅で暮らす高齢者の介護過程)</p> <p>介護過程の展開についての事例検討3 (介護老人福祉施設で生活する介護過程)</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキスト(株式会社学凛社発行)	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	介護過程Ⅲ
到達目標	<p>○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を提供できる。</p> <p>○介護計画をふまえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、他職種、他機関との連携を行うことができる。</p> <p>○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況等に応じた介護を行うことができる。</p>
時間数	45
学習形態	通学（演習）

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<p><u>介護過程の展開の実際と介護技術の評価</u></p>	<p>○課題項目</p> <p>利用者の特性に応じた介護過程の実践的展開</p> <p>介護過程の展開の実際についての事例検討1 （片麻痺のある高齢者の夢の実現に向けた支援）</p> <p>介護過程の展開の実際についての事例検討2 （在宅で終末期を迎える高齢者と家族の生活支援）</p> <p>介護過程の展開の実際についての事例検討3 （都会に住む一人暮らし高齢者の生活支援）</p> <p>※各事例については次の手順を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例概要 ・家族構成および生活歴 ・現況 ・介護過程の展開 ・フェイスシート ・アセスメント表 ・個別援助計画表 ・実施評価表 ・フィードバック
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>介護福祉士実務者研修テキスト(株式会社学凛社発行)</p>	<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>学則第18条、第19条のとおり</p>

科目名	こころとからだのしくみ I
到達目標	<u>介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を習得している。</u>
時間数	20
学習形態	通信

項 目	講義内容・演習の実施方法・課題等	
<u>介護に関係したからだのしくみの基礎的な理解</u> (<u>移動、移乗、食事、入浴、清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等</u>)	介護に関連した、からだのしくみの基礎を学び、習得する。 ○課題項目 目（視覚）、耳（聴覚）、皮膚（触覚）、口腔・舌（味覚）、呼吸器系、内分泌系、バイタルサイン、血液、泌尿器系、生殖器	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第 18 条、第 19 条のとおり	

科目名	こころとからだのしくみⅡ
到達目標	<p>○人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を習得している。</p> <p>○生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等人体の構造と機能についての基本的な知識を習得している</p> <p>○身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、観察・アセスメント、関連する職種との連携が行える。</p>
時間数	60
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>人体の構造と機能</u>	<p>生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクスなど、からだのしくみについて学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>消化器系（嚥下から消化へ）、消化器系（消化から排泄へ）、ブリストル便形状スケール、循環器系、DNA・遺伝、ホメオスタシス、睡眠、死、こころの変化、からだの変化、骨格系、筋肉、神経系、脳</p>
<u>人間の心理</u>	<p>人間の基本的欲求、学習・記憶などに関するこころのしくみを学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>からだとこころの関係、マズローの欲求の階層説、欲求不満・適応、適応機制、ストレス、意識、心理学における学習、観察学習</p>
<u>身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護における観察・アセスメントのポイント、連携等の留意点</u>	<p>からだのしくみ、こころのしくみをふまえた支援の実際を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>基本確認</p> <p><u>移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、</u> <u>休息・睡眠、人生の最終段階のケア</u></p> <p>フィードバック</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	発達と老化の理解 I
到達目標	○老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している。 ○老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している。
時間数	10
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>老化に伴う心の変化と日常生活への影響</u>	老化に伴うこころの変化と日常生活への影響を学び、習得する。 ○課題項目 老化の原則、老化に伴うこころの変化とその影響、老化に伴うこころの疾病、老化に伴うこころの障害、高齢者の知能
<u>老化に伴うからだの変化と日常生活への影響</u>	老化に伴うからだの変化と日常生活への影響を学び、習得する。 ○課題項目 老化に伴う体の変化とその影響、老化に伴うからだの疾病、老化に伴うからだの障害
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第 18 条、第 19 条のとおり

科目名	発達と老化の理解Ⅱ
到達目標	<p>○ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。</p> <p>○老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ等）と支援の留意点について理解している。</p> <p>○高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している。</p>
時間数	20
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>人間の成長・発達</u>	<p>ライフサイクル各期の発達の定義、発達段階、発達課題について学び、習得する。</p> <p>○課題項目 発達とは、発達段階と発達課題、フロイトの心理的・性的発達の理論、ピアジェの認知発達理論、エリクソンのライフサイクル理論、生涯発達過程に対する3つの影響</p>
<u>老年期の発達・成熟と心理</u>	<p>老年期の発達課題、こころの課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつなど）と支援上の留意点について学び、習得する。</p> <p>○課題項目 高齢社会の定義、高齢者、老年期における性格の変化、人格タイプと高齢期への適応、補償プロセス、高齢期のセクシュアリティ、ハーヴィガーストの発達課題、エリクソンによる発達課題、老年自覚、定年退職後の男性のタイプ、サクセスフルエイジング</p>
<u>高齢者に多い症状・疾病と留意点</u>	<p>高齢者に多い症状・疾病などと支援の留意点について学び、習得する。</p> <p>○課題項目 基本確認 高齢者に多い症状・疾病について、原因、特徴を踏まえ、対策としての環境の調整、日常生活場面の支援</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	認知症の理解 I
到達目標	○ <u>認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。</u> ○ <u>認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</u> ○ <u>認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している。</u>
時間数	10
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>認知症ケアの理念</u>	認知症ケアへの取組の経過をふまえ、今日的な認知症ケアの理念を学び、理解する。 ○課題項目 認知症とは、認知症の症状、認知症ケアの歴史、地域住民による認知症の理解
<u>認知症による生活障害、心理・行動の特徴</u>	認知症による生活上の障害、心理・行動を学び、習得する。 ○課題項目 B P S D、認知症による障害、認知症の類似症状
<u>認知症の人や家族へのかかわり・支援の基本</u>	認知症の人やその家族との関わり方・支援を学び、習得する。 ○課題項目 認知症ケア、感覚を刺激する関わり、認知症の進行に沿う関わり、認知症症状の観察、生活スペースの区分、環境の調整、日常生活場面の支援
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第 18 条、第 19 条のとおり

科目名	認知症の理解Ⅱ
到達目標	<p>○代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。</p> <p>○認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>
時間数	20
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>医学的側面から見た認知症の理解</u>	<p>認知症の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療などについて医学的知識を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>医学的側面から見た認知症の理解、認知症とは何か、心理検査</p>
<u>認知症の人や家族への支援の実際</u>	<p>認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、本人主体の理念に基づいた支援ができる。</p> <p>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p> <p>○課題項目</p> <p>基本確認</p> <p>認知症の人・その家族への支援の検討</p> <p>フィードバック</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	障害の理解 I
到達目標	<p>○障害の概念の変遷と障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。</p> <p>○障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している。</p> <p>○障害のある人やその家族に対する関わり方・支援の基本を理解している。</p>
時間数	10
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>障害者福祉の理念</u>	<p>障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史をふまえ、今日的な障害者福祉の理念を学び、理解する。</p> <p>○課題項目</p> <p>障害の概念と定義、ICIDH、国内法における生涯の定義、国連の宣言における人権思想、ノーマライゼーション、自立生活（IL）運動、インクルージョン</p>
<u>障害による生活障害、心理・行動の特徴</u>	<p>障害（身体・知的・精神・発達障害・難病など）による生活上の問題、心理・行動を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>障害がおよぼす心理的影響、障害の受容、価値転換論、ステージ理論、上田敏理論、精神分析</p>
<u>障害のある人や家族へのかかわり・支援の基本</u>	<p>障害のある人やその家族に対する関わり方や支援を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>家族支援の視点、家族の障害受容、ライフステージと家族、障害児家族のレスパイト、セルフヘルプグループ</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	障害の理解Ⅱ
到達目標	<p>○様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。</p> <p>○障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>○地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p>
時間数	20
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>医学的側面から見た障害の理解</u>	<p>障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化などについて医学的知識を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>障害者に対する介護の基本的視点、エンパワメント、アドボカシー、視覚障害、聴覚障害、言語障害、肢体不自由、麻痺、内部障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病、高次脳機能障害</p>
<u>障害の特性に応じた支援の実際</u>	<p>障害の特性、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。</p> <p>地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。</p> <p>○課題項目</p> <p>地域におけるサポート体制、障害児者への支援の実際、補装具・日常生活用具による日常生活支援、居住支援、就労支援、経済基盤の保障</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキストブック	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	医療的ケア
到達目標	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
時間数	50
学習形態	通信

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等
<u>医療的ケア実施の基礎</u>	<p>医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>医療的ケアの定義、看護職による在宅での医療的ケアの提供、介護職による施設での医療的ケアの提供</p>
感染予防	<p>介護職が行うべき感染予防を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>標準予防策の遵守、滅菌と消毒、薬剤耐性菌、手洗い</p>
<u>喀痰吸引(基礎的知識と実施手順)と経管栄養(基礎的知識と実施手順)</u>	<p>喀痰吸引と経管栄養の基本を学び、習得する。</p> <p>○課題項目</p> <p>喀痰吸引が必要な場面、呼吸のメカニズム、痰排出のメカニズム、非侵襲的人工呼吸療法、侵襲的人工呼吸療法、人工呼吸器装着時の生活上の留意点、人工呼吸器装着における緊急時対応、人工呼吸器使用中のトラブル、痰の吸引を行う前の観察、喀たん吸引をする前に対応しておくべきケア、吸引器、口腔内吸引、上気道と下気道による区分、痰の吸引における注意事項、薬液浸漬法、喀たん吸引後の片づけ、たんの吸引に関する記録と報告、人工的な栄養補給が必要となる場面、経管栄養の種類、経鼻経管、胃ろう・腸ろう、経管栄養剤の種類、経管栄養のリスク、経管栄養の用具、胃ろうの日常ケア、経管栄養の中止、緊急時の対応、経管栄養の記録と報告</p>
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキスト(株式会社学凛社発行)	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり

科目名	医療的ケア演習
到達目標	○医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。 ○医療的ケアの実技を通じて、医療的ケアを実施できるようになる。
時間数	12
学習形態	通学（演習）

項目	講義内容・演習の実施方法・課題等	
医療的ケア演習	医療的ケアの実技を学び、習得する。 喀痰吸引の基礎確認 喀痰吸引の実施手順 口腔内吸引（演習） 鼻腔内吸引（演習） 気管カニューレ内部の吸引（演習） 経管栄養の基礎確認 経管栄養の実施手順 胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養・経鼻経管栄養（演習） 救急蘇生法	
[使用テキスト・参考文献] 介護福祉士実務者研修テキスト(株式会社学凛社発行)	[単位認定の方法及び基準] 学則第18条、第19条のとおり	